

シンポジスト 2

小児歯科医療・保健の問題点と対策



参議院議員 西村 まさみ

略 歴

平成元年3月 日本歯科大学歯学部卒業
平成元年4月 東京医科歯科大学歯学部第3 歯科保存学教室入局
平成8年7月 まさみデンタルクリニック開設 (東京都中野区)
平成15年4月 東京都認証 コンビプラザ中野保育園歯科園医
中野区立北原小学校歯科校医
平成18年4月 中野区障害児(者)診療スマイル歯科診療所医局長
平成21年1月～平成22年3月 東京都国民健康保険診療報酬審査委員会保険者代表審査委員
平成22年4月～平成23年3月 社団法人東京都中野区歯科医師会理事(社会保険担当)
平成22年7月 第22回参議院議員選挙 初当選
平成22年9月 日本歯科医師連盟 顧問就任
平成22年10月 日本歯科大学校友会 常務理事就任

私は前回の参議院選挙で日本歯科医師連盟の推薦により当選いたしました。それまでは日本小児歯科学会の会員でもあり、開業歯科医として毎日子どもの診療もしていました。

今回、このシンポジウムでは、参議院議員という立場と子どもの診療を開業医として実施していた立場から、日頃感じていた小児の歯科医療や保健の問題点とその対策について、改めて考えてみたいと思います。

1. 小児歯科医療・保健の重要性について

一生おいしく楽しくよく噛んで味わって食べることは、生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくみますが、これを可能とする歯と口腔の健康と機能獲得の基礎は小児期に造られます。また、乳歯のう蝕等小児の歯と口の健康状態は、小児が置かれている養育環境と密接にかかわっており、う蝕や歯肉炎等の歯科疾患の予防や児童虐待を発見する点において歯科医師の果たす役割は大きいといえます。

小児期の歯と口の健康は、小児の心と体の健康・健全な発育に大きく影響し、生涯を通じた歯と口の健康づくりにおいて、これを見守る小児歯科医療・保健は極めて重要であります。

2. 小児歯科診療の経験をふまえ、現在の小児歯科医療・保健における問題点

1歳6か月児健診・3歳児健診については高い受診率ですが、その後は公的健診制度はありません。認可保育所、幼稚園においては歯科健診は実施されますが、認可外の保育園については実施されていないところも多くみられます。また、働く親にとって平日の決められた時間に受診することは困難です。健診を受けていない子どもが存在し、健診後に医院を受診しない場合もあります。

食べることの基礎を作るこの時期に、う蝕リスクが高く歯科保健医療が一番必要な子どもが結果的に放置され、支援するシステムができていません。

3. これからの小児歯科医療及び保健の発展に対する対策

現在、歯科口腔保健法の制定に向けて取り組んでいます。歯科口腔保健法の制定により、以下のような対策を可能とし、小児歯科医療及び保健の発展の基盤づくりとなります。

- ・妊婦の歯科健診に対する助成
- ・2歳児歯科健診の制度化
- ・母親が活用しやすい母子健康手帳の健診欄の改定
- ・すべての保育所・幼稚園への嘱託歯科医師の配置と歯科健診の制度化
- ・保育所・幼稚園・学校における歯科保健指導の強化
- ・地域で格差のある乳幼児医療補助制度の充実と12歳児までの医療費の無料化の検討
- ・ポスト健康21あるいは食育推進基本計画への小児歯科保健の強化・推進項目の盛り込み